

東日本大震災復興支援

失われた街

LOST HOMES

Tohoku Earthquake and Tsunami have demolished and damaged over 350,000 houses and buildings.

東日本大震災と大津波により、約35万棟以上の建物が失われ、被害を受けました

模型復元プロジェクト

teehouse.com/losthomes/

東日本大震災でなくなられたすべての御霊のご冥福をお祈りします。
また被災され現在もご不便のある生活をお送りの皆様、
風評被害に苦しんでおられるすべての皆様に
心からのお見舞いを申し上げます。

「失われた街」模型復元プロジェクトは、今回の大災害で失われてしまった街や村を
縮尺500分の1の模型で復元するプロジェクトです。
津波で一瞬のうちに失われてしまった街の記憶を継承し、復興へ向けて
地域の方々おひとりおひとりに復興への灯をともしていただく契機となる
ことを願って、全国の建築学生、研究室がボランティアで制作に取り組みます。

被災地の皆様が一日も早く豊かな日常を取り戻し、活力ある地域を
次世代へ繋いでいけるようになることが、私たちの目標です。

——「失われた街」模型復元プロジェクト事務局・神戸大学大学院准教授 櫻橋修

「失われた街」 模型復元プロジェクトとは？

街を模型で復元 + 縮尺500分の1 + 建築学生によるボランティア + 住民ワークショップ

東日本大震災とそれに伴う大津波により、東北・関東地方の太平洋側沿岸部で、多くの街や集落が一瞬にして失われてしまいました。私たち建築・都市デザインに携わる者としても、あらためて自然の脅威と私たち人間の非力さを思い知らされた次第です。それでもなお、私たちは将来を担っていく未来の世代へ向けて、建築を信じ、都市と自然の新たな関係を築いていかなければならないと感じました。そのためには私たち自身も、今回の津波で失われたものを認識し、把握しなければなりません。失われた街が湛えていた豊かな日常を想い、街への追悼を行わなければならないと感じました。このプロセスを通して、私たちも、被災地の皆様も、街の再生へ向けて第一歩を踏み出せるのではないかと思います。

このプロジェクトは、失われた街や村を1/500の縮尺の模型で復元し、地域に育まれてきた街並みや環境、人々の暮らしの中で紡がれてきた記憶を保存・継承していくことを目指しています。復元模型の制作は建築学生によるボランティアを中心として、地域の皆様、その他街の再生を願うすべての皆さんの協力を仰ぎながら進めていきたいと思っております。

□企画・構想：機構修+神戸大学機構研究室

□協力：東日本大震災における建築家による復興支援〈アーキエイド〉、気仙沼みらい計画、ティーハウス建築設計事務所

「失われた街」 模型復元プロジェクトの取り組み

2011年3月25日、建築学生達との話し合いの中でこのプロジェクトは構想されました。以後、様々な方々のアドバイス、協力を得て、プロジェクトは幾つかの展開をみせています。

建築学生による模型復元 2011.03.25 -

「失われた街～建築学生による 模型復元プロジェクト」

「2011年3月11日の午後、わずかな時間の内に私たちが失ったものは、とても「多く」、そして「多様」だ。すべてが失われた被災地に立って、ただ言葉を失う状況の中で、それを理解し、共有し、復興へ向けた真の言葉を取り戻すために、模型を作ろうと思った。前を向くために、一度時間を巻き戻し、街を復元する。そしてそれらがすべて失われてしまったことを今一度、理解する。時間がかかってもいい。これは治癒のプロセスだ。」(「治癒する模型 Model+Aid」機構修)

プロジェクトが誕生した後、私たちはその実現可能性について検討をはじめました。それは私たち自身が被災地を知るプロセスでもありました。



1/500模型



気仙沼市 浸水範囲ビクセルマップ

住民参加ワークショップ 2011.06.28 -

「記憶の街ワークショップ」 気仙沼市各地で開催

気仙沼の復興支援を目指す有志ネットワーク「気仙沼みらい計画」のプロジェクトとして、「失われた街」の仕様で制作した白い復元模型を被災地現地に運び、地域住民にヒアリングとともに着色作業を行い、協働で記憶の街を完成させる。模型制作の過程そのものが街の記憶の再生を促すワークショップ。2011年6月28日から、気仙沼各地で計10回開催。現在も継続中。



主催：神戸大学機構修研究室、横浜市立大学鈴木伸治研究室

協力：気仙沼みらい計画、アーキエイド

開催時期：2011年7月～9月(2011年11月現在も継続中)
模型制作参加(大学ゼミ及び学生有志)：神戸大学、横浜市立大学、武庫川女子大学、大阪大学、神戸芸術工科大学
ワークショップ参加：奈良県高校生ボランティア、気仙沼向洋高校ボランティア部、気仙沼各地の皆様、演劇関係者有志、他

ワークショップ対象地域：気仙沼市鹿折地区、大沢地区、南町、弁天町、階上地区(岩井崎)、大谷海岸(進行中)

模型+演劇による朗読作品 2011.10.14 -

「失われた街」 ギャラリー・リーディング

2011年8月、気仙沼市で開催した「記憶の街ワークショップ」から派生して生まれた演劇作品。ワー

クショップで住民によって語られた地域の思い出や津波襲来時の証言などを集めた「つぶやきカード」を俳優達が、ワークショップを通して記憶で彩られた模型の側で読み上げるリーディング作品。模型がいきいきと語り出す。失われた街の豊かさと津波の恐ろしさを後世に語り継いでいくプログラムとして制作を開始した。

初演：「失われた街 ギャラリー・リーディング」

日時：2011年10月14日 12:00-14:00

会場：BankART Life III「新・港村」 ホールD

演出：高尾 隆(演出家・東京学芸大学准教授)

出演：荒木秀智(俳優)、古賀彰吾(俳優)、保倉りえ(俳優)、本木幸世(俳優/劇団黒テント所属)

即興演奏：Kevin McHugh(ピアニスト)

制作：砂川史織(プロデューサー)

企画協力：高宮知数(プロデューサー/座・高円寺劇場創造アカデミー講師)

協力：座・高円寺劇場創造アカデミー、神戸大学機構修研究室、横浜市立大学鈴木伸治研究室、萬田隆+武庫川女子大学有志、BankART1929

復元模型による展覧会 2011.11.02-12.24

TOTOギャラリー・間 「311失われた街」展

主催：TOTOギャラリー・間

監修：内藤廣/原研哉

模型制作監修：機構修

模型制作：神戸大学機構修研究室、萬田隆+武庫川女子大学有志、立命館大学宗本研究室、京都造形芸術大学中村研究室、京都工芸繊維大学仲・城戸崎研究室、大阪工業大学前田研究室、日本大学山中研究室、神奈川大学菅我部研究室、東洋大学工藤・藤村研究室、名古屋工業大学北川研究室、名古屋大学久野研究室、宮城大学中田研究室、東北工業大学福屋研究室

「失われた街」模型復元プロジェクトは、今後も様々な展開が予定されています。

特設サイト：www.teehouse.com/losthomes/
にて詳細情報を公開しています。

「建築、アートが作り出す新しい環境—これからの“感じ”」関連企画

M0+
www.mot-art-museum.jp
東京都現代美術館

失われた街

LOST HOMES

東日本大震災復興支援
模型復元プロジェクト

—三陸に生きた集落たち—

Model Reconstruction of
Villages in Sanriku Coast



2011.12.13.(TUE) - 2012.1.15.(SUN) 東京都現代美術館エントランスホール

入場：無料 | 開館時間：10:00～18:00 [休館日 月曜日(ただし1/2・1/9は開館)、年末年始(12/29～1/1)・1/4・1/10]

主催 公益財団法人 東京都現代美術館
+「失われた街」模型復元プロジェクト実行委員会

協力 Archi Aid, 兵庫県立美術館, 八潮市

協賛 総合資格学院 / 株式会社総合資格, 株式会社エーディーワールド
株式会社ストゥディオオサカイ

企画 榎橋修(建築家)+「失われた街」模型復元プロジェクト実行委員会

模型制作監修 神戸大学榎橋研究室+名古屋市立大学久野研究室

アドバイザー 妹島和世(建築家)、西沢立衛(建築家)

模型制作 法政大学渡辺・下吹越プロジェクト / 宮城大学中田研究室 / 神戸大学榎橋研究室 / 武庫川女子大学有志学生 / 神奈川大学曾我部研究室 / 茨城大学寺内研究室 / 国土館大学南研究室 / 昭和女子大学杉浦研究室 / 名古屋市立大学久野研究室 / 名古屋工業大学北川研究室 / 愛知淑徳大学清水裕二・道尾淳子+有志学生 / 大阪市立大学宮本研究室 / 日本大学佐藤研究室・山中研究室 / 東京理科大学岩岡研究室・安原研究室 / 早稲田大学古谷研究室

URL www.teehouse.com/losthomes/

東京都現代美術館 〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 電話03-5245-4111(代表) / 03-5777-8600(ハローダイヤル) <http://www.mot-art-museum.jp>